

# ひとが動かす

## 最先端に挑む

次世代自動車や家庭用技術は1990年代前半のエネルギーとして注目から知られていたが、実が集まる燃料電池。水素用レベルの性能を發揮すから電氣を取り出す触媒の難しさが、約8年間に及ぶ研究には主に貴金属の白金が、尾崎が性能の壁を突破し、燃料電池の価格が下がりやすい一因になっている。群馬大学教授の尾崎純一が開発した「カーボンアロイ触媒」はナノ(ナ)は10億分の1)メートルレベルの微細な炭素構造を形成する。炭素に属する素材を使う。炭素に着目した尾崎は世界のトップランナーの1人だ。

**研究期間8年**

「燃料電池の専門家に聞いても、本当に白金が最高の材料なのかどうか誰も断言できないので、炭素を加工し、白金と似た性質を持たせる金と似た性質を持たせる炭素を利用した場合、

# 特産品で独自ブランド

## 栃木商議所 20製品程度を認定

栃木商工会議所(栃木県栃木市)は独自の地域ブランドを立ち上げる。年内

9月末を申込期限として、ブランド認定品を募

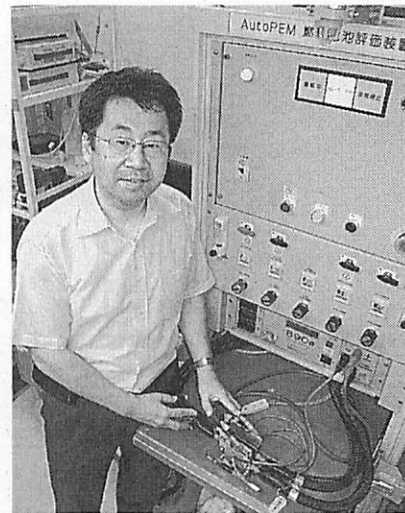
# 燃料電池、もっと身近に

燃料電池の触媒の価格は白金に比べて5分の1以下に下がる見通し。燃料電池そのものの価格も大幅に下げることができ、家庭にとってより身近な存在になる。

**白衣姿に憧れ**

世界に先駆けて炭素触媒の実用化にメドを付けた功績が認められ、今春という尾崎。炭素との出

# 触媒に炭素、価格下げる



群馬大学教授 尾崎 純一氏

《尾崎純一氏のプロフィール》

1961年	福島県会津若松市で生まれる
84年	東北大学工学部卒業
89年	卒業研究で炭素と出会う
96年	東北大学大学院修了
96年	群馬大工学部講師
2007年	群馬大教授
09年	白金に近い性質を持つ炭素触媒の開発に成功
10年	国が低炭素社会構築に向けた研究ネットワークの拠点に東京大、京大などと共に群馬大を選定
12年	文部科学相表彰を受賞

「炭素を通じて化学の新たな領域をつくりたい」

エネルギー社会を実現する。炭素技術をさらに磨き、光触媒の作用やバイオマス(生物資源)などで水素を作り出す手法の確立を目指す。「炭素で水素をつくる」「たの確立を目指す」「炭素で水素をつくる」

「環境にかける負荷を極力低減し、生活の質を維持していくことが僕たちの課題」。尾崎はそう学生に語りかけている。ほぼ無尽蔵に生み出せる素材を暮らしにどう利用するか。炭素一筋に生きる「カーボンマイスター」の夢は尽きない。(敬称略)

3県合わせて700万人の人口を有する北関東。多くの企業や大学などが集積し、多彩な人々が活躍する。最先端を走る人たちの活動や生き方を通じ、経済や暮らしの未来を垣間見る。

集する。すでに先行して「佐野ブランド」として市業者などの特産品を認定している。宇都宮市を認定した。9月に東京都内で開かれるギフト品の国際見本市に出展する計画だ。

栃木県内では佐野市が

県産を含めて市場への入荷量が多かったうえ、1年半ぶりの出荷であることを考慮すれば「妥当な価格(大津漁協と見る。今後試験換業で取れたシラスの出荷を予定しており、売れ行きをみながら本格操業を検討する。

グリーン電力の封筒などを導入

高崎信金